

編集委員

大野 裕	北西 憲二	北村 婦美	齊藤 万比古	下山 晴彦
中尾 智博	中村 伸一	林 直樹	原田 誠一	平島 奈津子
福山 和女	妙木 浩之	山中 康裕		

編集同人

青木 省三	飯森 眞喜雄	伊藤 良子	植木 啓文	大森 健一	笠原 嘉
加藤 敏	亀口 憲治	北山 修	衣笠 隆幸	久保 千春	久保木 富房
小谷 英文	小林 和	近藤 喬一	坂口 信貴	坂野 雄二	鈴木 純一
高橋 徹	高江洲 義英	滝川 一廣	瀧口 俊子	田畑 治	中久喜 雅文
中村 敬	植林 理一郎	西村 良二	平木 典子	弘中 正美	広瀬 徹也
前田 ケイ	松浪 克文	村瀬 嘉代子	村田 豊久	村山 正治	山内 俊雄
山上 敏子	渡辺 久子				(五十音順)

編集室から

フロイトの時代、精神分析家になるかどうかを決めるのは、その創始者フロイトだった。まあ先生の好き嫌いですべてが決まっていた時代がある。ところがフロイトが病に倒れてから精神分析の資格をもつために研究所ができ、訓練システムができた。誰がどんな訓練を受けたか、が問題になりはじめたのだ。先生、師匠の意味は複雑になった。その訓練システムができてから100年が経とうとしている。来年は、世界じゅうの研究所で、セレブレーションが行われるのだろう。

新型コロナを経て、世界は急にネットの世界で近くなり、訓練のなかにオンラインを入れるかどうかは、今まさに議論の最中である。だが

精神分析家の資格発行は、これとはあまり連動しないで、淡々と進んでいるように見える。精神分析を教えようとする、その先生になる選択をする人は、日本でも増えてきている。

人としての先生との出会い。誰が、誰にという人間的出会いの問題は大きい。訓練には技法の獲得という意味と、人としての選択という二つの側面があるように思う（アリストテレスとプラトンの対立点）が、後者は資源の問題なので、どんな人が先生になり、先生らしさとは何か、時代が変わっても、人生を左右するような重要な問題であることは間違いない。先生のメンタルヘルスを考える特集、いろいろなことを考える契機になってくれれば、と思う。（H.M.）

精神療法 第50巻第6号（年6回発行）

2024年12月5日発行（通巻265号）

定価2,420円（10%税込）年間購読料17,820円（10%税込／増刊含／送料不要）

購読ご希望の方は電話・葉書にてお申し込み下さい。

全国の書店からも注文できます。

発行所 株式会社 金剛出版

発行人 立石 正信

〒112-0005 東京都文京区水道1-5-16 升本ビル

Tel. 03-3815-6661 Fax. 03-3818-6848

振替口座 001206-34848

e-mail eigyo@kongoshuppan.co.jp

URL <https://www.kongoshuppan.co.jp/>

表紙レイアウト 白井新太郎装釘室／印刷・製本 太平印刷社

【JCOPY】〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉 本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。